

1 本年度の結果

①全国学力・学習状況調査 正答率平均

教科	国語	算数	理科
前年度結果 (対全国比)	68 (+0.3)	67 (+3.6)	()
本年度結果 (対全国比)	73 (+6.2)	68 (+10)	64 (+6.9)

②学習環境調査 icheck 【個人の心の安全 自己肯定感×学級適応感】

		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
A	人数(人)	23	24	30	29	27	29	33	30	27	28	54	54
	割合(%)	46	48	65	65.9	42	45.7	52	46.2	40	41.8	68	69.2
B	人数(人)	21	17	8	8	26	20	18	26	34	31	20	19
	割合(%)	42	34	17	18.2	41	32	28	40	51	46.2	25	24.5
C	人数(人)	4	7	4	3	5	8	9	1	2	2	2	0
	割合(%)	8	14	9	6.8	8	12.9	14	1.6	3	3	3	0
D	人数(人)	2	2	4	4	4	5	2	7	4	6	2	4
	割合(%)	4	4	9	9.1	6	7.8	3	10.7	6	9	3	5.1
E	人数(人)	0	0	0	0	2	1	2	1	0	0	1	1
	割合(%)	0	0	0	0	3	1.6	3	1.5	0	0	1	1.2

③学習環境調査 icheck 【クラスの成長力 規律と思いやり×発信力】

		1年		2年		3年		4年		5年		6年	
		6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月	6月	12月
A+B型	人数(人)	47	42	35	33	18	35	33	33	41	44	60	61
	割合(%)	94	84	76	75	28	55.4	19	50.8	62	65.8	28	78.3
A+C型	人数(人)	38	44	32	23	16	32	32	36	29	56	59	
	割合(%)	76	88	70	52.3	25	50.6	19	49.3	56	43.4	26	75.5
A+D型	人数(人)	41	43	35	28	20	48	45	46	38	42	53	56
	割合(%)	82	84	76	63.6	31	76.2	26	70.9	57	62.6	25	71.7
B+D型	人数(人)	12	6	14	21	20	31	32	33	31	38	23	19
	割合(%)	24	12	30	47.8	31	49.4	19	50.8	46	56.7	11	24.5
C+D型	人数(人)	3	8	11	11	18	28	31	32	26	23	19	17
	割合(%)	6	16	24	2.5	28	44.7	18	49.3	39	34.3	9	21.7

④学力定着調査(R6 NRT, R7標準学力調査)

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
		国語	前年度結果 偏差値平均	/	/	52.6	50.7
	本年度結果 標準スコア	54.1	52.1	51.7	52.8	53.2	50.4
算数	前年度結果 偏差値平均	/	/	52.2	52	54.6	54.5
	本年度結果 標準スコア	55.5	56.5	53.6	55.4	57.4	53
理科	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	54.6	50
	本年度結果 標準スコア	/	/	55.1	55.2	55.6	52.1

2 本年度の取組について

①調査から明らかになった課題

<p>【全国学力・学習状況調査をうけて】</p> <p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。 ●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することに課題がある。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして見つけた情報を基に文章を書くことに課題がある。 <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述することに課題がある。 ●基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述することに課題がある。 ●数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることに課題がある。 <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電流が流れる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることを理解に課題がある。 ●水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することに課題がある。 ●顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能に課題がある。 	<p>【標準学力調査をうけて】</p> <p>1年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●必要な事柄を集めて伝えたいことを明確にすることに課題がある。 ●示された文から場面を理解し、どちらが何個多く積み木を積むことができたか求めることに課題がある。 ●示された加法の式と日記から必要な要素を選び適切な文章問題を作ること課題がある。 <p>2年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体をとらえることに課題がある。 ●相手に伝わるように、経験したことに基いて話すことに課題がある。 ●条件に当てはまるものを選び、選んだ理由を説明することに課題がある。 <p>3年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●漢字の音読みと訓読みを判別することに課題がある。 ●グラフを正確に読み取ること課題がある。 ●影の向きから太陽の位置を理解することに課題がある。 <p>4年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事例を示して説明することに課題がある。 ●各図形における対角線の交わり方の理解に課題がある。 ●回路を作図することに課題がある。 <p>5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料から読み取った事実を書くことに課題がある。 ●小数を分数の形に直すことに課題がある。 ●気象情報の収集について理解することに課題がある。 <p>6年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文章を整えることに課題がある。 ●縮図を使って、実際の高さを求め、その求め方を式を使って説明することに課題がある。 ●顕微鏡の使い方や生物の呼吸と気体の出入りの関係について理解することに課題がある。
<p>【icheck 1回目をうけて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「個人の心の安全」において、E領域の児童数が、3学年にわたり5人。 ●「個人の心の安全」において、A領域の児童の割合が、一番高い学年と一番低い学年の差が28%。 	<p>【icheck 2回目をうけて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「個人の心の安全」において、E領域の児童数が、3学年にわたり3人。 ●「個人の心の安全」において、A領域の児童の割合が、一番高い学年と一番低い学年の差が27%。

②課題改善に向けた学校組織全体の重点目標・取組

取組(上記課題を踏まえたもの)	具体的方策(継続して取り組めるもの)	検証指標及び時期
<p>【全国学力・学習状況調査の結果から】</p> <p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●複数の資料や文章と図表との結びつきから情報を選択し、表現する学習の指導を行う。 <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●単位数に着目して数や量を捉える学習の指導を行う。 <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実験の結果を一人一人が理解し、説明できるよう指導を行う。 	<p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国語科や他教科(社会科等)の授業において、目的に応じた資料を選択し、簡潔に文章に表す活動を繰り返し取り入れる。 ●個人思考から集団で思考させ、さらにその後個人で思考させることで、一人一人が必要な情報を選択し表現できる力を身に付けられるようにする。 <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各学年において、数や量を単位数を基にして捉える学習を繰り返し取り入れ、児童が実感を持って理解できるようにする。 ●メタ認知・自己選択により、個別最適な学習を通して、一人一人が各自に合った方法で確実な力を身に付けられるようにする。 <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調べたいこと→方法→予想→結果→考察の流れにより、児童全員が主体的に実験に取り組み、なぜそうなるのか、結果から言える結論は何かを表現する活動を繰り返し行う。 ●既習事項と関連させることで、予想したり学習内容の定着に繋げたりさせ、一人一人が力を身に付けられるようにする。 	<p>1 国語科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関連する単元の単元末テストで、80点以上または成果物0評価以上80%以上 1年:子どもをまもるどうぶつたち 2年:あなのやくわり 3年:道具のみみつをつたえよう 4年:自分ならどちらを選ぶか 5年:地域のみりよくを伝えよう 6年:いざというときのために ●標準学力調査において、各学年の関連する項目での正答率全国平均以上 <p>2 算数科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関連する単元の単元末テストで、80点以上80%以上 1年:大きいかず 2年:分数 3年:分数 4年:分数 5年:比とその利用 ●標準学力調査において、各学年の関連する項目での正答率全国平均以上 <p>3 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ●関連する単元の単元末テストで、80点以上80%以上 3年:電気の通り道 4年:ものあたたまり方 5年:電流が生み出す力 6年:電気と私たちのくらし ●標準学力調査において、各学年の関連する項目での正答率全国平均以上
<p>【標準学力調査から】</p> <p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●必要なことを選択して文に表現したり、問題文から様子を理解したりすることができるようにする。 <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●文章や問題文を読み取り、場面を想像・理解できるようにする。 <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●既習事項を活用して課題を解決する力を身に付けさせる。 <p>4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●物語文の読み取りや、図形、電気についての基礎的な力を身に付けさせる。 <p>5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●資料の読み取りや文での表現をする力、小数・分数の意味を理解させる。 <p>6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基礎的な知識や文章の書き方を定着させる。 	<p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●日々の授業や必要なことや大切な言葉に印を付けたり、挿絵と結び付けたりして、様子を想像しながら表現したり読み方を考えたりする練習をする。 <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長文問題による読み方の指導・練習問題への取組や、問題文に印をつけて読ませ図や式と対応させる練習への取組を行う。 <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●課題となっている事項について解説した上で練習問題に繰り返し取り組ませる。 <p>4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●練習問題による反復学習や体験的な学習により定着を図る。 <p>5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●基礎的な知識を確認した上で、練習問題による反復学習に取り組ませる。 <p>6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ミラシードやプリントを用いて、基礎的な知識の定着を図ったり、文章の記述上のポイントを整理したりする。 	<p>1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再度、標準学力調査の問題に取り組ませ、習熟度を確かめる。時期:3月 指標:正答率5%以上上昇 <p>2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再度、標準学力調査の問題に取り組ませ、習熟度を確かめる。時期:3月 指標:正答率9%以上上昇 <p>3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再度、標準学力調査の問題に取り組ませ、習熟度を確かめる。時期:3月 指標:正答率目標値以上 <p>4学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再度、標準学力調査の問題に取り組ませ、習熟度を確かめる。時期:3月 指標:正答率目標値以上かつ5%以上上昇 <p>5学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再度、標準学力調査の問題に取り組ませ、習熟度を確かめる。時期:3月 指標:正答率目標値以上かつ5%以上上昇 <p>6学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ●再度、標準学力調査の問題に取り組ませ、習熟度を確かめる。時期:3月 指標:正答率目標値以上かつ5%以上上昇
<p>【icheck(1回目・2回目)から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安心できる居場所をつくる。 ●所属感、自己有用感を高める。 ●児童が主体となって活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学級において、学期初めや学期終わり及びいじめアンケートの実施と同時期に担任等による児童面談を実施し、児童の困り感を把握する機会を増やす。 ●学級において、学期に1回以上構造的グループエンカウンターやSSTを実施し、お互いを認め合う時間や関わり方を知ることにつながる。 ●縦割り組において、週に3回の掃除や月に1回程度の朝会、学期に1回程度のイベントなどで活動する場を設定し、高学年のリーダーシップを育むとともに全児童の所属感や自己有用感を高める。 ●学校行事の際、学級や学年において、目標を共有しながら児童が主体となって計画的に取り組むことで、所属感や自己有用感、達成感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●年度内、新たな不登校児童を出さない。時期:年度末